

平成30年

雲南市議会9月定例会  
一般質問通告一覧表

【一般質問日程 平成30年9月4日～9月6日】

平成30年雲南市議会9月定例会 一般質問通告一覧表 目次

順番	日程	議席番号／氏名	質問方式	ページ	順番	日程	議員番号／氏名	質問方式	ページ
1	9/4(火) 9時30分～	19／小林 眞二	一問一答	1～2	11	9/6(木) 9時30分～	11／藤原 政文	一問一答	24～25
2		3／松林 孝之	一問一答	2～4	12		15／細田 実	一問一答	25～26
3	9/4(火) 13時00分～	18／堀江 治之	一問一答	4～5	13	9/6(木) 13時00分～	4／中村 辰眞	一問一答	26～28
4		2／中林 孝	一問一答	5～8	14		10／周藤 正志	一問一答	28～30
5		8／細木 照子	一括	8～10					
6	9/5(水) 9時30分～	9／佐藤 隆司	一問一答	10～14					
7		6／矢壁 正弘	一問一答	14～17					
8	9/5(水) 13時00分～	12／西村雄一郎	一問一答	17～19					
9		1／上代 和美	一問一答	19～20					
10		13／土江 良治	一問一答	20～24					

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
1	19	小林 眞 二 (一問一答)	1. 教育行政について  2. 原発問題について	<p>(1) 教職員人事権委譲について</p> <p>① 中核都市に移行した松江市が市内の公立小学校教員の採用や異動などの人事権を委譲するよう県に求めていることについての見解を問う。</p> <p>② 雲南市、特に中山間地域においては義務教育に格差も生じる恐れも考えられるが、学校教育に影響はないのか伺う。</p> <p>③ 今後の動向への対応について見解は。</p> <p>(2) 教員の時間外勤務について</p> <p>① 雲南市内での教員の時間外勤務について現状と、その対応策について問う。</p> <p>② 県は教員の負担軽減で中学の部活動を週 2 日以上以上の休養とするなどの方針を公表したが、その対応について問う。</p> <p>③ 松江市教育委員会は、中学校の部活動に関し、生徒と指導教員の負担軽減を図るため独自のガイドラインを示したとの報道があるが、雲南市での考えを問う。</p> <p>(1) 稼働の是非判断は、審査後の議論に委ねられるとはいえ、審査申請と稼働の可否の「2 段階方式」は、手続きが形骸化する懸念が指摘されているが、見解を問う。</p> <p>(2) 今後、原発が動くのであれば、安全性がしっかり審査されなければならないが、一番重要な安全性は誰が確認するのか問う。</p> <p>(3) 市民説明会も終わり、市民の声の 1 つに、火力発電代替えの説明が不十分、休廃止が示されない姿勢に疑念を抱く声について、所見は。</p> <p>(4) 立地自治体と同等な安全協定締結を強く求めたが、今後の具体的</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			3. 災害対策について	<p>な方策について問う。</p> <p>(5)避難計画では、原発30キロ圏雲南市を含む4市の約27万2千人の避難先は、広島、岡山両県の計49市町村のそれぞれに設定されたが、実効性には疑問符が付き、広域避難には課題もあると言われている。計画について見解を問う。</p> <p>(1)西日本を中心とした、多くの死傷者が出る大災害となった。各地域では、いろいろな想定外の災害や被害が発生したが、今後、大規模な地震と大雪、豪雨、台風などの複合災害が考えられるが、実効性のある対策はあるのか伺う。</p> <p>(2)自然災害と原発事故との複合災害対策についての所見は。</p> <p>(3)どこの災害でも問題になるのが、災害ごみ処理と言われる。被災地の早急な生活再建には的確な指示がかかせない。現状と対策について問う。</p>	
2	3	松林孝之 (一問一答)	1. 災害対応について	<p>(1)自主防災組織について</p> <p>①全市各町において、地域自主組織の自主防災組織の設立状況は。</p> <p>②設置された自主防災組織の規模・単位は。</p> <p>③指定避難所のキャパは避難者数に対応しているか。</p> <p>④行政から出された避難勧告、避難指示の連絡体制は一律の流れとなっているか。</p> <p>⑤勧告・指示を伝える側となる自主防災組織会長をはじめとする役員の責任はどこまでか。</p> <p>(2)豪雨対策について</p> <p>①以前、加茂町連坦地の内水排除ポンプの能力について質問をしたが、時間雨量に換算した浸水は算出できないとのことであった。しか</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
				<p>し報道では気象台発表の時間雨量が伝えられていることから、市民にはその数字が分かり易く認識度も高い。改めてポンプの能力は何ミリまで対応していて、危険と判断するのは何時間で何ミリ以上か。</p> <p>②河川の氾濫は、上流域・中流域での雨量が影響する。加茂町赤川において、土手を超える水位による氾濫と、土手の崩壊による決壊があった場合、超える恐れのある部分と崩壊の恐れがあるところはどこか。</p> <p>③市内大小の河川の土手の経年劣化の調査は行われているか。</p> <p>④全市の連坦地で河川に隣接するエリアも河川決壊の懸念があるが対策は。</p> <p>⑤河川上流部や山の谷合では土砂災害が懸念されるが、急傾斜地は山間部に限らず街部の小さな傾斜地も同様である。危険を察知するには困難をきわめるが、その対策はあるのか。</p> <p>(3) 異常高温対策について</p> <p>①これまで高温対策は災害との位置づけではなかったが、災害レベルと言われている。異常高温による熱中症患者の市内の発生状況は。</p> <p>②県内小中学校の普通教室エアコン配備についての報道があり、本市は高い設置状況であることについて学校現場からも高い評価である。一旦は100%であった設置率が99.6%に下がったのはなぜか。</p> <p>③全小中学校に太陽光発電パネルが設置されているが、閉校となった校舎の装置は稼働しているか。</p> <p>④学校施設は地域の指定避難所でもあることから、今後は有事の備えとして体育館にスポットクーラーのような冷房設備も必要となる。太陽光パネルの蓄電設備や臨時的に設置が可能な空調設備も検</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
				<p>討してはどうか。</p> <p>(4)複合災害発生時の対応について</p> <p>①地震は予報も無ければ予知もできないことから、複合災害となる可能性が最も高い。豪雨・豪雪・猛暑・寒波・台風・夜間、そして原発に至る全ての要素が考えられる。複合災害に対応できる危機管理体制は構築されているか。</p> <p>②静岡県焼津市では、市の危機管理室が消防防災センターにあることから情報の収集と共有、市民への伝達、消防団や消防に対しての指揮命令を一元的に運用されている。本市の危機管理室も庁舎内に有るが、市内の常時監視モニターも無く事実上は会議室となっている。平常時と災害時の映像やデータを残すことも今後の危機管理には大きく影響を与える。そのような監視システムの導入も必要では。</p> <p>③3.11 東日本大震災で宮城県石巻市の大川小学校では、地震発生から51分、津波警報発令から45分後に津波に襲われた。津波への意識が薄れていたとしか言いようがない。慣れとかマンネリという言葉が防災にあってはならない。行政が先頭に立ち、全市一斉のそれぞれの地域の現状に則した総合防災訓練が必要ではないか。</p>	
3	18	堀 江 治 之 (一問一答)	1.平成30年7月豪 雨災害の教訓から 学ぶ防災・減災に ついて	<p>(1)7月の豪雨災害は一部識者からは地球温暖化に伴う災害だとも言われており、現在雲南市の環境基本計画での地球温暖化対策計画と、その現状・成果について伺う。</p> <p>(2)国直轄管理河川を有する自治体に対し「タイムライン」(事前防災行動計画)を策定するよう促されていると思うが、雲南市の策定状況と市民周知の考えについて伺う。</p> <p>(3)雲南市のハザードマップについて</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
				<p>①ハザードマップが各家庭に配布されているが、認知度はどの程度と認識されているのか伺う。</p> <p>②現在のハザードマップは地震・水害・土砂災害が同一の指定避難所施設となっているが、災害毎に施設指定が必要と考えるが、考えを伺う。</p> <p>(4)災害時の情報伝達に有効な無線放送の導入が計画されているが、豪雨時には聞き取りにくい欠点があると言われていたが、無線導入に対しその対応策について伺う。</p> <p>(5)河川の氾濫防止について</p> <p>①河川の合流点でのバックウォーターによる堤防決壊が多数発生していたが三刀屋川の斐伊川合流点付近での河川断面や堤防強度は十分なのか伺う。</p> <p>②三刀屋川沿い地域に「避難勧告」が発令されたが、河川管理者である島根県に対して三刀屋川の斐伊川合流点までの河川断面確保と堤防補強等要望活動の考えはないのか伺う。</p> <p>(6)洪水時のダムからの放流量・放流時期に対し安全性に疑問視する報道があったが、尾原ダムからの放流に対しての情報伝達はどのような手順・方法がとられているのか伺う。</p> <p>(7)広島県福山市では、ため池が決壊し犠牲者が出たと報道されたが、市内の危険なため池の現状と今後の対応方針について伺う。</p> <p>(8)土砂災害防止のための急傾斜地対策・砂防ダム・治山ダムの現状と今後の土砂防止対策計画について伺う。</p>	
4	2	中 林 孝 (一問一答)	1. 除雪対策について	(1)今年2月に大雪が降った際、加茂町内は除雪が遅れ市民生活に大きな影響が出た。加茂町にも除雪機械の配備が必要と考えるが所見	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			2. 学校行政について	<p>を伺う。</p> <p>(1) 松江市は小中学校教員の人事権を県から移譲させる考えを示している。人事権の移譲問題及び検討会議の進め方について所感、市の対応方針について伺う。</p> <p>(2) 国は地方創生を進めている。地方創生の視点で市独自で教員の採用する考えはあるか伺う。</p> <p>(3) コミュニティ・スクールが始まった。コミュニティ・スクールの意義、今後の方向性や進め方について伺う。コミュニティ・スクールに対し教育現場や関係者、市民の反応はどうか。</p> <p>(4) 義務教育学校について市の基本的な考え方を伺う。</p> <p>(5) コミュニティ・スクール化は義務教育学校の前提とした手順か伺う。</p> <p>(6) 義務教育学校について、どの程度まで議論・検討が進められているか伺う。また、義務教育学校について教育現場や関係者の声をどのように認識しているか伺う。</p> <p>(7) 義務教育学校化した八束学園の場合、10年余りの年月をかけて小中学校の教員の相互交流を行ってきた実績がある。その中で様々な課題もあったと聞く。どのように認識、分析しているか伺う。</p> <p>(8) 義務教育学校は期待感もある一方、課題も存在する。義務教育学校化を進めてきた学校、また、現在進めようとしている学校についてどのように評価しているか伺う。</p> <p>(9) 市内の小学校教員で中学校教員免許を保有している教師の割合はどれぐらいか。また、中学校教員で小学校教員免許を保有している割合はどれぐらいか伺う。</p>	



質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			3. 木次線について	<p>(10)市には、八束学園のような相互交流の実績がない。また、現在、新学習指導要領の実施に向け準備も進められている。学校現場では多くの課題が山積しており、現状況下では義務教育学校に向けた議論や手続きは慎重に行われるべきと考える。市の考えを伺う。</p> <p>(11)市内小中学校校舎の老朽化が進んでおり、順次建替えしなければならない。建替えと義務教育学校の建設は別問題でありセットで考えるべきではない。市の見解を伺う。</p> <p>(12)老朽化し建替えが差し迫っている校舎がある。早急に対策を取らねばならないが建替えに向けたロードマップについて伺う。</p> <p>(13)教育制度や教育設備の問題ではなく教育の質をどう高めていくかが問題だ。本質論を議論すべきと考えるが、今後どのように教育行政を進めていくか伺う。</p> <p>(14)統合学校給食センターが来夏の完成を目指して工事が進められている。市内産食材の供給率アップに向けた対策について伺う。</p> <p>(15)現在、市内の学校給食センターでは2社の事業者が給食を調理・提供している。統合後の学校給食センターに勤務する従業員の雇用予定について伺う。</p> <p>(1)トロッコ列車の後継機について交渉状況、進捗状況を伺う。</p> <p>(2)「あめつち」で提供される食事の素材に市内産の食材を提案してはどうか。また、「あめつち」の運行予定のない曜日に木次線への入線を働きかけてはどうか。見解を伺う。</p> <p>(3)三江線が廃止となり約半年が経過した。三江線の轍を踏まないために、三江線の教訓を踏まえ木次線存続に向け今後の方針、行動計画について伺う。</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
				(4) 法定計画である地域公共交通網形成計画は本市で策定されているか。	
5	8	細木照子 (一括)	1. 異常気象対策について  2. 市民に広く理解される災害時の避難対策について  3. 認知症不明者対策について	<p>(1) 北極や南極の氷山が解けて崩れ行くテレビを見ると、寒波や猛暑や豪雨の異常気象が起こるのも、何となく解る様な気がする。地球に住み着く生き物の王者気分で、余りにも自己中心的に身勝手な暮らしによるものではないか。来年の6月に大阪で開かれる「主要20カ国首脳会議」に向けて、温暖化対策の長期戦略をきちんと持ち、世界と手をつなぐよう全国市長会等で地方の声を強めてほしいが、見解を伺う。</p> <p>(1) 災害時の避難対策は、一刻を争う重要なものである。その避難行動を起こすための指示表現が、広く市民に行き届き、理解されているか、大変不安に思う。</p> <p>大きな被害を出した、先の西日本豪雨では、避難指示などが出されて、避難したのは対象者217万人近くの内、5,788人で約0.3%にとどまったと言われる。避難情報が避難行動に殆ど結び付いておらず、「逃げ遅れ」が被害を拡大したと言われている。</p> <p>いま「心理調査」などが行われている様だが、災害時に「ハザードマップ」のような洒落た言葉を使わないで「災害予測地図」なら、高齢者にも殆ど解る。また「避難準備」「避難勧告」「避難指示」も、どれが緊急性が高いのか解らない。市民に理解される避難対策について、早急な対応をすべきだと考えるが、見解を伺う。</p> <p>(1) 昨年1年間に全国の警察に届け出のあった「認知症の行方不明者」は、1万6千人に近いと言われる。5年連続の増加だという。</p> <p>市長の施政方針でも「高齢者見守りSOSネットワーク事業」の体</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			<p>4. 高齢運転者の激増時代における交通事故防止対策について</p> <p>5. 中山間地域等直接支払制度の将来展望について</p> <p>6. 全国学力テスト結果について</p> <p>7. 市内観光地の解</p>	<p>制を強化される様だが、私の1つの提案として、上着の裾の裏側等へ「住所・氏名」を書いた小さなカードを縫い付ける等の指導は出来ないものか。個人情報は大切なものであるが、行方不明状態を救済する事がもっと大切だと思う。対策について見解を伺う。</p> <p>(1) 全国の75歳以上の運転免許保有者数は、2007年に283万人であったが、2017年には540万人と、10年間に約倍増したといわれる。その内、80歳以上の免許保有者数は221万人と、約40%を占めている。それに伴って交通事故件数も増加している。高齢になると視力が落ち、視野が狭くなり、夜間視力も低下する。</p> <p>免許更新時に75歳以上の方には「認知機能検査」が行われている。しかし、運転禁止の線引きは難しいと言われる。そこで、やはり地域のローカル線や市民バスなどの、運転に代わる「移動手段」の充実が大変重要な役割を果たす事になるようだ。市の高齢者交通事故防止対策について、見解を伺う。</p> <p>(1) この制度は、大半の地方自治体が継続を求めているといわれる。しかし一方、高齢化や担い手不足、人口減少によって、活動を維持出来ない集落が出始めたと言われている。市としては、どの様な傾向にあって、どの様な対応を必要と見ておられるか、見解を伺う。</p> <p>(1) 全国学力テストの結果が、全国紙で詳しく報道され、47都道府県中の順位が克明に解った。教育に携わった事のない者が、運動会を見る様に「何番だった」だけで、一喜一憂して良いものか。児童の努力不足か、先生の教え方によるものか、家庭も含めた総合的な要因によるものか。教育長の見解を伺う。</p> <p>(1) 中国地方随一の名瀑と言われ、八重滝と共に「日本の滝百選」に</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			<p>りやすく親切な管理について</p> <p>8. 公衆便所設置場所の周知について</p>	<p>選ばれている「龍頭が滝」へほぼ 30 年振りに訪れたが、道路案内看板が小さく解りにくい。滝へ昇り降りする「木製の階段」は、階段幅を錯覚して踏み外す様で恐いのが現状だ。また、転落防止の柵が欲しい場所もある。もっと解りやすく、親切な管理が出来ないか見解を伺う。</p> <p>(1) 松江市から大東の海潮を通過して、木次あたりまで帰るのに「公衆便所」を見つける事が出来なかった。市内には「公衆便所」が 50 数カ所あると聞いた事がある。</p> <p>道路を走っていても「この先 200m 右折、公衆便所あり」のような周知がなかったら、現場へ行かない限り解らない。もう少し周知が出来ないか、伺う。</p>	
6	9	佐藤 隆 司 (一問一答)	1. 雲南市木次図書館について	<p>(1) 雲南市立木次図書館開設 25 周年目について</p> <p>①現在の木次図書館は、平成 5 年 3 月 (1993 年) に完成し、7 月に開館された。その後、開館 1 周年記念には講演会、平成 9 年 (1997 年) には開館 5 周年記念として図書館管理運営研修会、平成 15 年 (2003 年) には新館開館 10 周年記念式典及び記念事業の親子読書講演会、平成 20 年 (2008 年) には、新館開館 15 周年記念事業のコンサート、平成 26 年 (2014 年) には新館開館 20 周年記念事業として紙芝居ライブ記念イベントが実施されてきた。</p> <p>木次図書館開設は、ホシザキ株式会社創設者の坂本薫俊様より多額の寄付を受けて建設された経緯があり、雲南市民として感謝の意を示すために時を刻む節目々の記念事業が開催されてきた。平成 30 年度は新館開館 25 周年にあたり四半世紀の節目となる。どのような取り組みを考えておられるのかを伺う。</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			<p>2. 本庁舎の市民開放について</p> <p>3. 防災対策について</p>	<p>(1) 開庁後の本庁舎の利用について</p> <p>①開庁後 3 年が経過するが、当初想定されていない施設の不備や市民の皆さんの意見などで改善が必要な点はあるのか。</p> <p>②新庁舎建設の基本計画の基本方針では「来庁者に分かりやすく利便性の高い庁舎」とされ、誰もが利用しやすく利便性の高い施設を目指すとのことから、使いやすい市民開放施設「オモテ座敷」「ロク座敷」が設けられているが市民の皆さんの利用状況は。</p> <p>③使いやすい市民開放施設として、今後どのように利用促進を図られるのか。</p> <p>④木次町内の地域自主組織から「がっしょ祭り」の開催について、本庁舎周辺をメイン会場として開催したい旨の協議がされたが、結果は使用できないとのことであったが理由は何か。</p> <p>⑤理由はどうであれ、チャレンジしやすいまちを標榜し、「チャレンジの連鎖による持続可能なまちづくり」を掲げ、大人チャレンジとされる地域自主組織からの要望であったと思うが、対応の柔軟性に欠けると考えるが見解を伺う。</p> <p>⑥その他にも、斐伊地内にある「そばクラブ」では市内のそば打ち団体が一堂に会して「そばまつり」を企画したいと意気込んでおられるが、そうした市民の有志団体のチャレンジも認められないのか。</p> <p>(1) 西日本豪雨災害等からの教訓について</p> <p>相次ぐ災害に見舞われる中、西日本豪雨災害はあまりにも身近で大災害となったことから、現時点でのその災害の教訓からできる限りの対応・対策を考え備えておかなければならないと考える。そこで、行政（公助）と市民（自助・共助）の防災について伺う。</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			4. 食の幸発信推進 事業について	<p>①公助機能の行政として本庁舎や総合センターの職員の防災訓練はどのように実施されているのか。</p> <p>②本庁舎は、防災拠点機能が備わっているが、その機能の職員等の周知や機能訓練はされているのか。</p> <p>③自助・共助である市民による自主防災組織の組織率（地域自主組織80%）の向上も重要ではあるが、より求められることは実効性ある活動の深度であり、万が一の時に組織が機能するかだ。市が推進される地域自主組織の自主防災組織化でそれが機能するか市長の認識を伺う。</p> <p>④形だけの自主防災組織では、もはや災害時の対応はできない。行政や地域自主組織ではできることに限界があり、自助・共助である市民の実働に委ねることは多い。市長の「自治会力の低下により、地域自主組織（＝自主防災組織）の強化が必要だ」と言われるが、自助・共助を考えれば「自治会レベルの自主防災の意識を浸透させることで自助・共助力を高め、地域自主組織は地域の情報伝達や状況把握を徹底する」ことが必要である。まさに、情報・状況判断はトップダウンで、自主防災や災害時はボトムアップだ。市長はそうした認識に考えを改められる必要があるが。</p> <p>(1)6 次産業化拠点施設事業から産直市拠点事業に事業内容の方向転換について</p> <p>①「JAしまね」の団体が応募されるとは思ってもみなかったのが率直的な感想であった。JAは、これまで1年8ヵ月を費やされた検討委員会の参画団体でもあり、これまで検討委員として経緯を十分承知されているメンバーであり、自らが事業内容の方向転換をした</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
				<p>提案をされたことに疑問を感じるが、今回の提案で市が目指された6次産業化拠点施設となりうるのか分かり易く丁寧に説明されたい。</p> <p>②そもそも論であるが、JA自体が産直市に期待を示し事業実施を行うのであれば、特に公設民営（多額の公費）でする必要はなく、農業全般にわたり実行力のある団体（JA）への個別支援（補助金交付）をした方が双方のわだかまりもストレスもなく、より自由度が広がる民間感覚で事業展開の推進となると考えるが。</p> <p>(2) 尺の内農園事業について</p> <p>食の幸発信推進事業が取り込まれる隣接地で、あおぞら福社会などによる農福連携を目指す尺の内農園事業の参考とされた、愛知県小牧のワイナリーを会派フォーラム志民で視察し、ホシザキ株式会社坂本精志会長とも面会した。</p> <p>①坂本精志会長の愛郷心の思いもある中で、当然中途半端な市の対応はできないと感じるが、市として主体性を持った今回の尺の内開発につながる将来構想をどう描こうとされているのか。</p> <p>(3) アグリカルチャーパーク構想について</p> <p>①JAからプレイヤー側の提案者としてプレゼンテーションが行われ、具体的な提案では、平日はシニア層に対する対応を考え、土日には若者や子育て世代をターゲットとする提案であった。その中で、体験型園芸ハウスの必要性やキッズスペースなどの構想が示されていた。その内容は周辺事業や施設と連携・協力して一体的な「農業観光ゾーン」として取り組みをしたい旨の提案であったが、市としてはどう受け止められ、提案を活かす今後の基本計画を策定されるのか。</p> <p>②これまで何度も発言し、6月定例会でも「交流人口をねらうので</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
				<p>あれば、遊具施設を備えることが必要である」と質問させていただいたが、「構想の見直しは考えていない」と答弁をされた。先般のJAのプレゼンテーションでも土・日曜日の集客やリピーター確保には若い世代に期待し、更に子育て世代にターゲットが示されキッズスペースの必要性も提案された。「将来構想なくして着実に歩む将来はない」と考え、一体的な「農業観光ゾーン」を単なる食の幸発信ではなく、西日本随一の「アグリカルチャーパーク」の素地がうかがえると感じているが、基本計画の修正に盛り込む必要があると考えるが見解を伺う。</p>	
7	6	矢 壁 正 弘 (一問一答)	1. 小中学校の問題 について	<p>(1)通学路の安全対策について</p> <p>①6月18日発生した大阪府北部地震では登校中だった9歳の児童がブロック塀の下敷きとなって亡くなった。本市内の通学路途中にもブロック塀が点在し危険箇所が多くあると思われるが点検は行われたのか伺う。</p> <p>② 行なわれたのであれば点検結果を、行なわれていないのであれば何故行わなかったのか見解を伺う。大変重要な事案であると思われるが。</p> <p>③ 通学路途中には押しボタン式の信号機が多数設置されている。通常の信号機と違いドライバーの認識が薄いようで赤表示でも進入する場合がある。最近、阿用校区内において児童が横断中にも発生した。安全対策を講ずる必要があると思われるが見解を伺う。</p> <p>④ 過去、通学路の防犯灯設置については何度か見解を伺ってきた。今も保護者からの防犯灯設置に対する要望が多い。防犯灯の設置要件は十分理解しているが、通学路の安全対策として、設置、管</p>	



質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
				<p>理を本市で行う防犯灯があっても良いと思われるが見解を伺う。</p> <p>(2)通学手段について</p> <p>①小中学校の通学手段として、徒歩、自転車、スクールバス通学の3種類がある。本市合併当時は各小学校でも児童数が多く自治会単位で安全に徒歩通学ができていたが、近年、自治会に数人以下のところもある。帰路も最終的に1人で帰る児童もあり危険が伴い冬季になれば一層危険が増す。スクールバスの利用可能範囲の拡大等、通学手段の見直しを考える時期に来ていると思われるが見解を伺う。</p> <p>②中学生の保護者から、冬期の積雪により自転車通学が困難な場合、市民バスを利用しても良いのかと聞かれた。本市としては許可していないとの事だが何故なのか伺う。</p> <p>③冬期の積雪時には保護者の車による送迎で混雑すると聞く。この状況を解消するためにも許可をしてはと思われるが見解を伺う。</p> <p>(3)固定電話回線の複数化について</p> <p>固定電話回線が1回線しか無い学校もあるようで、緊急時に電話を掛けてもつながらず困ったとの声を聞いた。学校によっては更新時に複数回線になっている所もあるようだが、大災害が頻発するなか防災上からも早期の複数回線化が必要と思うが見解を伺う。</p> <p>(4)学校支援員について</p> <p>発達障がい児童への対応として、クラス担任の他に支援員を配置して対処している。小学校では支援員数も充実しているようだが、中学校の生徒に対しては十分でないとの声を聞いた。支援員数の拡充が出来ないか伺う。</p> <p>(5)小中学校普通教室エアコン設置について</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			<p>2. ヘリポート建設 について</p> <p>3. 上下水道事業に ついて</p>	<p>今年も梅雨明けと共に猛暑が続き、気象庁は「命の危険がある暑さ。災害と認識している」と表明し熱中症予防を呼びかけた。その中、県下小中学校の普通教室へのエアコン普及率が報道され、県下で最初に100%を達成したはずの本市が未達成となっていた何故なのか伺う。</p> <p>(1) 市立病院建設に伴いヘリポート設置の検討がなされたが、近隣の既存施設の活用状況等を踏まえ新本館棟の屋上への設置はしないこととなった。但し、ヘリポートそのものの必要性はあることから、市が病院の近隣に用地を確保し、常設のヘリポートを整備することとなっている。その後、グリーンシティ北側に建設が計画されたが、県道の交通事情等により中止となったが計画は進展しているのか伺う。</p> <p>(2) 近年、異常気象が続くなか、本市もきちんとした常設のヘリポートを早急に整備すべきと考えるが見解を伺う。</p> <p>(1) 上水道の水圧不足について</p> <p>① 上水道の末端地域では水圧が不足している場所があるが把握されているのか伺う。</p> <p>② 同じ水道料金(基本料金)を支払っているのに不公平だとの声を聞いた、対処できないか伺う。</p> <p>(2) 雲南市汚水処理施設整備構想について</p> <p>① 本年6月に構想が出された。効率的な運営管理を行っていく上で重要であると思うが集合処理区域と個別処理区域との接続検討(大東処理区)が最終となっている。面的整備を優先すべきと思われるが見解を伺う。</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			4. 宅地造成時の道路法面使用許可について	<p>② 大東連担地の赤川より北側は、子ども園、小学校、高等学校があり環境整備の上からも下水道整備が急がれると思うが見解を伺う。</p> <p>③ 合併浄化槽の耐用年数は平均 32 年であり、平成の初期に設置された浄化槽は耐用年数に近い物もあり取替えの時期も迫っている。他の工事と並行して行えないか伺う。</p> <p>(1) 雲南市普通河川道路等管理条例において、道路法面部を盛土する場合には市長の許可を受けなければならないとされている。条例に従い許可申請を受けて施工するのが当然だが、条例を認識せず施工を行われる方もある。本市とし平等に指導していくべきと思うが見解を伺う。</p> <p>(2) 許可申請を受けるに当たり、構造物の設置基準が定められている。一定の基準を定めることは大事だが、実際の現場に合わないこともあり不具合を生じることが多々ある。基準の見直し等考えるべきと思うが見解を伺う。</p>	
8	12	西村雄一郎 (一問一答)	1. 三刀屋地区古城成畑、一宮地区古城大門町の度重なる水難、避難について	<p>両地区は、今夏も大雨により避難を余儀なくされた。避難は、過去何度もあった。止むに止まれぬ気持ちで質問する。</p> <p>(1) この地域への避難勧告等の過去の発令について問う。</p> <p>(2) 何回も繰り返すこの事態をどうとらえているか。</p> <p>(3) 建設部長の過去の答弁で「大門町地区は逃げるしかない」との答弁があった。今も、この認識か。</p> <p>(4) 古城地区で三刀屋川の水位が上がる原因は何か。</p> <p>(5) 主因が天神頭首工であれば、その改良改善策をとるべきだ。</p> <p>(6) 改善策が実現してこなかったのはなぜか。</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			2. 災害時要援護者の避難対策について	<p>(7)天神頭首工を農業施設ととらえず、防災の観点で対策予算を確保すべきではないか。</p> <p>(8)農業施設の枠が取り払うことができないのなら、防災の観点で予算を確保し、受益農家への補助を厚くし可倒式等への転換を促進すべきだ。</p> <p>(9)これ以上、人命財産が脅かされる状況を放置しておくことはならない。事態改善のためこれまで以上に、国県に対し要求すること、市の財政をかけてでも取り組んでいくことを宣言されたい。</p> <p>(1)雲南市には、災害時要援護者が何人おられるか。そのうち施設でなく家庭におられる方は何人か。</p> <p>(2)病院施設でなく家庭におられる人について、それぞれ個別に避難計画ができているか。救援に向かうチーム、どこへ避難するのか、避難の経路、酸素吸入、インスリンなど医療的措置、車いすなど介護的措置、避難救護の優先度などについてどうか。</p> <p>(3)そして、計画遂行のための移動手段、運転士、看護師、介護士、必要ならば救急車など検討され、用意されているか。</p> <p>(4)行政、病院・診療所、福祉施設の連携は図られているか。</p> <p>(5)避難所へ連れて行ってあげればよい場合は、住民で対応できるが、医療的処置が必要な人のケースの場合、住民がどうすればよいのか指導がない。家で一緒に待機しているのか、避難所までひとまず搬送して救護を待つのか。要援護者により対応が違うと思う。プライバシー等に配慮しながら適切に自治会長等お知らせをするべきではないか。</p> <p>(6)特に家族に方法等伝えておけば、現場で救護者等に伝えられ、適</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
				切な対応がとられるのではないか。	
9	1	上代和美 (一問一答)	1. 原発問題について  2. 小中学校の特別 教室等へのエアコン 設置について  3. 公の施設の使用 料見直しについて	(1) 原発3号機における新規性基準適合性審査申請の事前了解願いを認めた理由は何か。 (2) 「原発なくせ」は市民の一致した願いである。原発ゼロの決断こそエネルギー問題の解決の出発点になると考えるが、所見を伺う。 (1) 今年の夏の暑さは、「災害」であるとも言われている。災害であるならば、予防しなければならない。市の公共施設として、市庁舎、各総合センターではすべての部屋にエアコンが設置してある。一方で小中学校の特別教室等は小学校で30.8%、中学校で25.0%の設置率である。この現実をどのように認識されているのか、市長、教育長に伺う。 (2) 今年、文科省はエアコンの設定温度を30℃から28℃にするよう指導している。しかしエアコンのない教室では35℃を超えるような猛烈な酷暑となっている。必ず特別教室を使わないといけない音楽室、また食堂棟など来年に向けて設置する考えはないか。 (1) 8月20日総務常任委員会において、公の施設の使用料見直しについて説明があった。基本的な考え方が示されたが、公共施設はそれぞれの目的に沿って、多くの市民に使われてこそ建てた目的が果たされるものだ。使用料値上げで、稼働率が下がれば本末転倒である。使用料の据え置きをすべきではないか。 (2) 8月22日全員協議会で、「今回の見直しでどれぐらい使用料が増加するのか」との私の問いに、「50%減免を想定すると微増」との担当課からの回答を受けた。自主的な市民の活動を積極的に支援する	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			<p>4. コウノトリと共生するまちづくりについて</p> <p>5. 基金の取り崩しで国保料負担の軽減を</p>	<p>立場に立つなら、使用料値上げではなく、稼働率を上げる工夫をすべきである。</p> <p>(1) コウノトリについては、市民の中にいろいろな意見がある。なぜこの地域を子育ての環境として選んだのかを基本に据え、市民の理解を得る施策をまず構築すべきである。そして、「無理なく、できることから、多くの人に」をコンセプトに政策の立案をするべきである。</p> <p>(2) コウノトリの好影響の一つに、癒しの効果がある。そして地域でのコミュニケーションの一つにもなっている。市民の中での情報共有の一つとして、夢ネットなどでの発見情報を継続的に放送できないか。また、春殖交流センターは営巣時期にはたくさんの方々が来訪される。学術調査のためにビデオ録画されているが、来訪者のためにテレビ画面で同時に見ることが出来ないか。</p> <p>(3) コウノトリをキーワードに、子どもたちや若い方々が参画できるようなアクションプランを立てるべきである。</p> <p>(1) 「国保料が高すぎる。何とかしてほしい」「払っても、そのために生活がきびしくなる」こういった声がアンケートに届けられている。平成 29 年度国保特別会計決算で約 1 億円の基金を積み、平成 29 年度末残高約 3 億 2,800 万円となっている。さらに今年度 9 月補正予算では、2,900 万円の基金を積み上げる予算を提出している。払いたくても保険料が高すぎて払えない実態がある。基金の取り崩しで負担の軽減を図るべきではないのか。</p>	
10	13	土江良治 (一問一答)	1. 農地中間管理機構(農地バンク)の	この 7 月初め、農水省は昨年度の農地バンクの都道府県別の集積目標に対する達成率を公表したとのこと。新聞報道では、新規集積実	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			<p>農地集積状況と今後の見通し、これからの課題などについて</p> <p>2. 消防団員確保対策と条例定員について</p>	<p>績トップは鳥取1位、島根2位とある。国が平成26年度導入した農地バンク事業、新規集積は全国的に頭打ち状況下での快挙であるのか。そこで伺う。</p> <p>(1)雲南市のバンクの目標全集積面積はいくらで、平成28年度までいくら集積、そして29年度新規集積はいくらであったか。その達成率とプラス要因は何であったのか。</p> <p>(2)一方、公表によれば、島根県の農地バンクを介さないものを含む担い手への集積率は、全国平均55.2%を下回り32.3%という。政府は10年間で全農地の80%を大規模経営に集約する目標を掲げているが、市のこれまでの全集積面積はいくらで、達成率でいうとどうか。また、耕作条件および高齢化がどのように集積実績に影響を与えているのか。旧町村ごとの平成29年度現在の達成面積、達成率は。</p> <p>(3)現在、シャッター農家や高齢化という変化に対応できなく廃業の道を選ぶ事象が顕在化、深刻化し、集落課題として突き付けられているが、なかなか策はない。これまで農地バンクを稼働させて来てどのような課題が浮かび上がるのか。例えば、担い手不足・育成、要再圃場整備、農地バンクの認知度など。耕作依頼が年々増加が予想される。これら課題を解決先進地にするため、今後どのように対処していく考えなのか。</p> <p>(1)少子化、人口減少などを背景に団員確保は全国的に悩みの種とされている。合併時6ヵ町村の条例定員をそのまま新市で合算。合併以来、その定員を実数に近づける条例改正は行われていない。地域防災力の低下を招かないよう、団員加入促進にどのように努められてきたのか。また、現条例定員確保は可能か否か。</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			3. 中学校の運動部活動の在り方とスポーツ庁のガイドラインについて	<p>(2) 現在、市で活動されている消防団員は、私の知るところでは1,216人、条例で定めている定員1,442人に届いていない。8市の充足率はどのような状況で、人口千人当りの団員数はどうか。</p> <p>(3) 自治体は消防団員の退職報償金などの支給に備えて、10月1日現在の団員数を基に共済基金を支払っている。地域の防災・防火を最前線で担う団員の定員は、容易に減らすことも出来ず、有効な打開策は見えていない。そんな中、静岡県浜松市は苦渋の選択と「余剰の出費」対策として、この10月から条例定員を大幅に削減するとの新聞記事。雲南市も過剰な支出が常態化していると思われるので、条例定員改正の準備をすべきと思うが、他7市の改正状況とこれに対する認識について尋ねる。</p> <p>今年の爆暑の中の部活動に思う。市内中学校の運動部活動について、生徒・教員双方の負担軽減の視点から伺う。</p> <p>(1) 現在の部活動時間の目安、休養日の設定など、ガイドラインは各学校まかせなのか。あるいは教育委員会としてどのように扱われているか。部活動の実態を伺う。</p> <p>(2) スポーツ医科学の観点からみた活動時間などの他、部員や担当顧問教員で学校業務と部活両立への思いなど、実態調査などは実施されているのか。</p> <p>(3) スポーツ庁のガイドラインがこの3月にまとめられ、都道府県教育委員会に通知した。そのガイドラインの内容と雲南市の実態とはどのようなものであったか。</p> <p>(4) 茨城県はスポーツ庁の指針にほぼ沿った内容で、朝練禁止、休養週2日など県教委が運動指針を発表、すでに各学校に通知している。</p>	



質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			<p>4. 議員のなり手不足解決法の一環として青年議会の開催について</p> <p>5. 雲南市の働き方改革、時間外の削減について</p>	<p>本県、本市もガイドラインに沿って指針を策定していくことになると思うが、どのようになっているのか伺う。</p> <p>(1)各地で例のある「子供議会」「高校生議会」でもない「青年議会」。富山県は①青年の県政に対する関心を高め、その意見を県政に反映させる。②民主政治に対する理解と正しい関わり方の学習の場とすることを目的に、富山県青年議会を昭和32年から開催、今年は62回目という。主催は富山県、富山県教育委員会、富山県青年議会実行委員会。この青年議会で出された提案が生かされた例があるほか、この青年議会経験者から県内自治体の首長、議員が何人も生まれているというから、議員のなり手不足の現状からして一考に値する。</p> <p>以前、子供議会開催について一般質問で取り上げられたように思うが、即効果を期待し、より年上の社会人が対象である。鳥取県南部町は今年、富山県の事例をヒントにこれを初めて取り入れ、青年議会初開催に取り組む。課題解決先進地として取り組みを提案するが、所見を伺う。</p> <p>(1)石川県七尾市は5万余の人口で、面積は318㎢の市である。その七尾市は、県内唯一予算編成業務にかかる職員の時間外勤務を減らす働き方改革の一環で、6月補正予算を編成しなかった。</p> <p>補正予算は社会情勢の変化、突発的な自然災害対策など、当初予算の成立後に生じた事情で予算内容に変更を加える必要がある場合に編成するものである。6月は3月から間がない。</p> <p>七尾市は6月補正を行わないことを念頭に、年度内に採択が見込まれる国などの補助事業の市負担分を当初予算に盛り込むなどし、6月補正で歳出予算を組まないで済むよう工夫したとしている。こ</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
				<p>のことは、例えば当初予算編成業務の中でどうせ6月補正があるとの安易な考えの一掃にもなる他、何よりも職員も定員管理によってゆとりある職場はなくなっている中、残業時間短縮となる。七尾市のその後を検証する必要もあるが、このために専決が多くなれば、それは臨時会をもって対処するとして雲南市も一考に値するように思うが、可能かどうかも含め、市長の見解を伺う。</p>	
11	11	藤原政文 (一問一答)	<p>1. 東京オリンピック、パラリンピックについて</p> <p>2. 農業問題について</p> <p>3. 食の幸発信事業について</p>	<p>(1) 東京オリンピック、パラリンピック開催まで2年を切った。地元出身選手、地元有縁の選手に市を挙げて応援が必要だ。市としての考えを伺う。</p> <p>(1) 本年6月25日に「センチピードグラス」の吹付実証が行われた。今後の展開について伺う。</p> <p>(2) 機械は高価なものだ。補助制度の導入の考えを含め伺う。</p> <p>(1) 当初の市の考え方と違う提案があった。6月議会一般質問の答弁において「魅力ある加工品施設で集客を図る」という旨の答弁があったが、方向性が変わるということか。</p> <p>(2) これまでの検討の中で十数億の案もあったと先般の全員協議会で初めて聞いたが、その案が採用されなかった理由は、事業予算が市が想定する事業費と大きく乖離していることだけが理由か。</p> <p>(3) 唯一、応募のあったJAしまね雲南地区本部の提案をみると、JAが主体となり、市は補助金等で支援すべきものと思う。市の見解を伺う。</p> <p>(4) JAから提案があったが、JAとして機関決定はどのようにされたか。また、今後のJA機関決定手順と全体スケジュールはどうのようになるのか伺う。</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			4. 各種宣言について	<p>(5)提案された案を基に、本年12月を目途に基本計画作成に向けての協議が進むが、これまでの積み上げられたものとの乖離をどのように埋めていく考えか。また、市として譲れないポイントはどこか伺う。</p> <p>(1)「うんなん健康都市宣言」が宣言され4年が経過した。現状に対する評価、今後への課題、対応方針を伺う。</p> <p>(2)「雲南市男女共同参画都市宣言」が宣言されて5年が経過した。現状に対する評価、今後への課題、対応方針を伺う。</p> <p>(3)『「平和を」の都市宣言』が宣言されて13年が経過した。現状に対する評価、今後への課題、対応方針を伺う。特に、「私たちは、世界平和の実現と核兵器の廃絶に努めます。」という宣言から、「核兵器禁止条約」の早期実現がなされなければならないが、具体的な行動を含めた答弁を求める。</p>	
12	15	細 田 実 (一問一答)	<p>1. 災害対策について</p> <p>2. 原子力防災について</p>	<p>(1)災害に想定外はありえないといわれる状況にある。大阪北部地震、西日本豪雨災害など災害が続く。これらの災害からの雲南市の教訓はなにか。(防災、連絡、避難など)</p> <p>(2)人命を守るために早期の避難が求められている。避難場所の備品整備の充実を図る必要があるのではないか。(食器類、プライバシー保護など)</p> <p>(1)原子力災害(島根原発)に備え今秋の防災訓練で広島、岡山への住民の避難訓練を実施する方針との報道がされたが、その内容について伺う。</p> <p>(2)安定よう素剤の事前配布を今年度も行う計画だが、昨年度実績は人口配布率で0.39%と低い。どう改善するのか。</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			3. 公契約と労働条件について 4. 食育と学校給食について	(1) 公契約条例を制定すべきではないか。 (2) 公契約における労働条件審査の状況を伺う。 (1) 食の重要性は言うまでもないが、雲南市の食育推進計画の実践状況について伺う。 (2) 食育と学校給食の連携について伺う。 (3) 仮称統合学校給食センター建設を機に学校給食における地産地消のさらなる展開の考え方を伺う。	
13	4	中 村 辰 眞 (一問一答)	1. 災害対応について	平成 30 年 7 月豪雨においては被災地域から学ぶことが多くあった。 (1) 避難情報について 最近「避難準備・高齢者等避難開始」という避難の準備を呼びかける情報が発表される。7 月 6 日 17 時 44 分に三刀屋町成畑地区、一宮地区に避難勧告が発令されているが、本来避難勧告の前段に「避難準備・高齢者等避難開始」を呼びかけられるものと思うが、なぜ呼びかけられなかったのか経緯を伺う。 (2) 避難所について ①本市では、主に浸水と土砂による災害の危険性が大きいと考える。市内には 72 箇所の指定避難所があるが発災時に避難所が浸水したり、土砂災害に巻き込まれたりする可能性の高い避難所が確認できる。各避難所は、どの災害時に対応可能の可否が示されているが、浸水と土砂災害の両方に対して適応している指定避難所は何か所あるか、また指定避難所でありながら両災害に適応していない避難所はあるのか伺う。 ②各地での災害を検証し本市に置き換える時に、未来における避難所の見直しが必要ではと考えるが見解を伺う。	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			2. 不育症の周知や患者支援の推進について	<p>③今夏のような極暑の中では、避難所の居住環境が厳しくなると思う。生活及び衛生面の環境整備が必要な指定避難所についてどのように整備するのか伺う。</p> <p>(3) 災害対応型自動販売機について 災害発生時に飲料を供給する目的で設置されている災害対応型自動販売機。設置されている避難所はあるが市内全てではない。断水時に給水車が配車されるまでの間の飲料確保に有効と考えるが設置に対する考えを伺う。</p> <p>(4) 本市は、災害時に民間事業者に協力を得るための「災害時応援協定」「災害時支援協定」を結んでいるが、現状と今後新たに市内へ出店する大型店舗に対しての取り組みを伺う。</p> <p>昨年 3 月定例会において、不妊治療の助成制度についての質問をした。人口が減少する中で人口の社会増を目指す自治体が多くある。本市においても同様であるが、自然増にもしっかりと意識を持つことが必要と考える。不妊治療が拡充された今、さらにその先にある不育症に対しての取り組みをするべき時と考える。不育症とは、2 回以上の流産、死産や早期新生児死亡（生後 1 週間以内の赤ちゃんの死亡）を繰り返して結果的に子どもを持っていないことと定義される。流産の確率は年齢とともに上がるため、晩婚や晩産化が進む近年では深刻な問題の一つでもあるとされている。</p> <p>(1) 不育症について本市では、どのように認識されているか伺う。 (2) 気軽に相談できる体制の充実が必要であると考え。相談体制と周知啓発についての考えを伺う。 (3) 不育症の検査や治療の多くが保険適用されていない。患者支援と</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			3. 本庁舎施設に関して	<p>して経済的負担軽減を図り、治療を受けやすくする不育症の治療費助成制度が必要と考えるが見解を伺う。</p> <p>(1) 本庁舎の前は市民バスやデマンドバスの乗り換えとしての機能がある。今夏の暑さの中、高齢者がバス停直近で待つのは命の危険を伴うことであると思う。庁舎内の涼しい環境下に待つ場所を確保し、案内をするべきではないかと考えるが見解を伺う。</p> <p>(2) 車いすで使用できる多目的トイレ。男性用女性用入口の上部に車いすを表す表示がある。実際に車いすで利用された方から「表示が分かりにくい」との意見を頂いた。男女を表すデザインの横に車いすのデザインを移動できないか伺う。</p> <p>(3) 庁舎内での不審者及び迷惑行為者に対する対応の現状を伺う。</p> <p>(4) 不審者及び迷惑行為者の対応において、警察への通報に関して基準などはあるのか伺う。</p>	
14	10	周 藤 正 志 (一問一答)	1. ダムからの放流について  2. 公の施設の使用料見直しについて	<p>西日本豪雨では、愛媛県の肱川でダムの大量放流後に河川が氾濫し、逃げ遅れたとみられる人が犠牲となった。</p> <p>(1) 尾原ダムでは放流量が記録的な大雨に対応しているか。</p> <p>(2) 三刀屋川や久野川などにおいてバックウォーターの危険性はないか。</p> <p>(3) 住民への情報伝達は大丈夫か。</p> <p>(4) ダム（河川、砂防）の土砂の浚せつは適宜行われているか。</p> <p>来年10月の消費税引き上げに合わせる形で、公の施設の使用料引き上げが示された。本来、維持管理がどれだけ増えて、それに見合う受益者負担をお願いします、という形でないといけないが、見直し（案）では受益者負担が適正・妥当なのか判断できないではないか。</p>	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			3. 子育て支援について	(1) 来年 10 月から消費税引き上げに合わせ、それを財源にして幼児教育・保育の無償化がスタートする。保育ニーズが高まると予想されるが、保育士不足や待機児童がいる中で対応できるのか。 (2) 鳥取県では在宅育児への支援を行うことによって子育ての選択肢を増やし、出生数増につなげている。在宅で子育てしたい世帯への支援も本来考えるべきではないか。	
			4. 外国人との共生社会について	出雲市では外国人をよく見かけるようになったが、インバウンドの宿泊者数では、鳥根県は全国最下位だ。本市でも人手不足の職場に外国人を受け入れるなど、外国人との共生が必要となってくる。社会的・文化的に受け入れていく制度や体制を整えていくべきではないか。	
			5. 公共交通政策について	地域公共交通における市の役割は今後さらに増していく。木次線の存続・利用促進、市民バス・だんだんタクシーのあり方、高齢者や通学者など交通弱者対策をどうしていくのかなど、交通政策の全体的な方針を条例等で明確にする必要があるのではないか。	
			6. 官僚の不祥事に学ぶ	中央官僚による隠ぺい、改ざん、ごまかし、不正など不祥事が相次ぎ、信頼は地に落ちた。これを他山の石として、市の組織の問題点を洗い出し、活かしていくべきだ。	
			7. 農業振興について	(1) 市は策定した農業ビジョンにおいて、県と呼応する形で園芸作物の振興を図るべく、5 品目に重点を置いて取り組むこととなった。リースハウス事業との関連など目標どおりに進捗するのか。 (2) 担い手の確保・育成が最重要であるが、十分な成果が上がっていない。安来市のような U・I ターン者向けの農地や住宅をひとまとめにした就農パッケージなど取り組む必要があるのではないか。	

質問 順位	議席 番号	議員氏名 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
				(3)安心安全な食への関心がさらに高まることから、「美味しまね認証」や「JGAP」(GAP＝農業生産工程管理)にどう取り組んでいくのか。 (4)計画されている食の幸発信推進事業は、本市農業の米、園芸、畜産の総力を結集した施設とならなければならないがどうか。	